

令和6年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業			評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート	市担当課	生活安全課	
事業の概要	関連事業者や専門家と連携した「空き家に関するワンストップ総合窓口」を設置し、水戸市内の空き家を現在所有する方、現在所有の住まいが空き家となる可能性がある方及び相続等の理由により、空き家を所有する可能性のある方に対して、適切な助言・提言を行う。また、空き家関連のセミナーや個別相談会を開催する。 空き家所有者の負担軽減を目指し、地域の活性化と地域住民の不安を解消し、誰もが安全に安心して住むことができるまちづくりを目指す。			
委員会意見	本事業は、社会問題となっている空き家を取り扱う有意義な事業である。相談件数が増加しており、社会問題の解決に貢献している。 人員について、年間の対応件数 64 件に対し、ボランティアの人数が少ないため、人数を増やすことが望ましい。正会員が 1 名退会したことも残念であり、様々な人々が関わることで活動のサポートにつながるため、行政が有識者の確保についても支援していただきたい。 広報について、広報みとへの広告費が経費の大部分を占めているため、広報の方法を工夫し、潜在的なニーズを捉えていただきたい。 行政の役割について、様々な相談に対して団体に対応を引き継ぎ終了してしまうことは不十分に感じる。空き家を所有しているために福祉サービスを受けることができないなどの複雑化する相談に対して、団体だけでなく協働で検討していただきたい。生活安全課を筆頭に様々な部署とも連携を図り、重厚なサービスを提供するセーフティネットの形成を望む。 また、事業の内容について、本事業と他の業者を利用した場合の手間や手数料の違いについて明示することで安心感につながると考える。事業の仕組みを分かりやすく表示し、利用の促進につなげていただきたい。 令和 7 年度が協働事業 3 年目となることを踏まえ、今後も市と連携を強化しながら、きめ細やかな対応を継続し、安全安心な水戸市のまちづくりに寄与していただきたい。			

令和 6 年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」			評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人ちいきの学校	市担当課	高齢福祉課	
事業の概要	高齢者ドライバーの事故や免許返納問題に加え，また新たに 75 歳以上に設けられた免許更新時の認知機能検査などに不安を抱える方も多い。当事業では，運動を通して身体的機能（筋力，反射力，柔軟性）や認知機能の維持を目的に市民の皆様をサポートする。			
委員会意見	本事業は，高齢者の運転継続を支援するための有意義な事業である。 しかしながら，広報の費用対効果については検討する必要がある。特にポスティングについて，高齢者向けの広報として適しているが，最も費用が高く効率が悪いので，今後の会場としている自動車学校で広報していただくなど，より効果的な方法を検討していただきたい。参加者が家族等の勧めで参加している場合は，若い世代に届きやすいネット広告が効果的であると考え。また，アンケート結果から次回も参加したいという人の割合が高いため，1 講座 15 名の定員を継続の参加者が圧迫することのないように団体や自動車学校，行政で協働し，新規の参加者を増やす取組をしていただきたい。 体組成計のレンタル費について，公的機関等からの借用によって費用を削減する工夫をしていただきたい。 自動車学校の中には，認知機能の訓練を有料で実施している自動車学校があり，本事業とタイアップすることで高齢者の検査に対する不安解消につなげていただきたい。75 歳以上の認知機能検査は，慣れない場所で初めての検査に不安を抱える人もいるため，本事業の講座を自動車学校で開催することによって，実際の検査の際の緊張を緩和することが期待される。一方で，自動車学校は敷居が高く感じる場合があり，アクセスが自動車に限定される場所だけではなく，運転に自信のない人が気軽に参加できるような市民センターを活用することは有効であると考え。 また，1 期の講座回数を 6 回から 3 回に減らしても小冊子の活用等によって講座の効果が見込める場合は，1 期の数を 2 倍に増やすことも検討していただきたい。 協働事業 3 年目となる令和 7 年度は，あらゆる方面とのタイアップを検討し，市と協働で更なる可能性を模索していただきたい。			

令和6年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	ふるさと教育「御老公と行く！私たちの水戸」		評価欄 B
協働事業者	一般社団法人 水戸葵社中	市担当課	生涯学習課
事業の概要	子どもたちが自分たちの目線で「ふるさと・水戸」の歴史、今、未来を考え、調べたことを、過去からタイムスリップして現代にきた水戸黄門様へ教える動画を作成し、自分たちのふるさとである水戸市について、一緒に考える機会を作る。 また、市内の歴史的建造物文化財などを市内小学生とともに考えていくドラマ形式の動画を作成・配信し、ふるさとについて学ぶ機会を提供する。		
委員会意見	本事業は、文化・歴史教育を行う意義深い事業であり、動画から参加した子どもたちの楽しそうな表情が印象的であった。 本事業は短期的に評価することが難しいが、報告書において事業の効果が検証されていない点が残念である。撮影日程の記載のみでは不明瞭であり、事業を継続する上で、小学校の募集方法や、撮影場所の選定方法、保護者からの意見などの詳細を記載していただきたい。また、参加した子どもたちが水戸黄門を通して深い学びを得ることができたのか不明であるため、アンケートを実施するなど、満足度の調査をしていただきたい。 事業内容について、水戸黄門を若い世代に知ってもらうという趣旨は理解するが、消防署やスーパーで撮影を行ったことについて、当初の事業内容との相違を感じる。学校との調整によって場所を選定したのか経緯を示すとともに、事業の内容を大幅に変更する際には、事前の相談や説明が必要であることを念頭に置いた上で実施していただきたい。 水戸黄門は民放のドラマにおいて大きく脚色されており、実際の歴史と相違があることは、子どもたちに伝える教員も認識しているであろうが、動画を作成する上で誤った情報を子どもたちに伝えることがないように時代考証等の監督が必要であると考えます。また、魅力発信という点において、動画の閲覧数が少ないことは残念であり、引き続き動画の広報等に取り組んでいただきたい。 バス借上などの経費について、バス会社等の御厚意によって捻出されなかったとの報告があったが、必要な経費は支払うべきであるため、今後は検討していただきたい。 令和6年度で本事業の最終年度となったが、今回の課題を踏まえ、関係機関と連携を図り、教育効果を高める協働事業にしていきたい。		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月29日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見交換を行った。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート、並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×10人＝200点満点

			採点基準
A	評	価	150～200点
B	評	価	100～149点
C	評	価	50～99点
D	評	価	0～49点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n （企画・計画段階）	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o （ 実 行 ）	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k （ 評 価 ）	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n （ 見 直 し ）	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5